

兵庫県高砂市市街地におけるムラサキシジミの不連続な確認記録

島崎正美¹⁾・島崎能子¹⁾

兵庫県におけるムラサキシジミ *Arhopala japonica* (以下, 本種) は, アラカシなど常緑カシ類がある山地の山麓部や林縁部でごく普通に見られる蝶で, 市街地で観察できる機会はきわめて少なく, そのような個体はどこか遠くから飛来した可能性が考えられるが, 筆者らが知る限り長距離移動をする習性があるという報告はないと思われる. 高砂市ではアラカシなどが多い阿弥陀町の山地・山麓部や曾根町の日笠山 (標高 62m) など安定した生息地が知られているが, 市街地における正確な実態がわからない不連続な成虫の確認記録について報告する.

筆者らが高砂市内で蝶観察を始めたのは 1980 年だが, 2009 年 3 月 19 日に初めて松波町のウバメガシの垣根周りで本種の越冬個体 1♂ 1♀ を観察した (図 1). このウバメガシの垣根近くの自動車道路沿いにはアラカシが並木として植栽されており, そのひこ生えに新葉が多く出るのを見ているが, 本種の幼虫や成虫を観察したことはない. 2009 年 3 月の観察個体がウバメガシで発生した可能性を考えたが, 越冬前となる 2008 年の秋に本種の成虫を見ておらず, 発生の経緯がわからないまま時が過ぎた.

4 年後の 2013 年 10 月 27 日に, 高砂市西畑二丁目の高砂公園でウバメガシの垣根周りを飛ぶ本種を観察した. 本種の観察は 2009 年 3 月に次ぐ二度目である. この場所は, 1980 年から毎週末に利用しているテニスコートのすぐそばにあり, 発生源として考えられるのはウバメガシだけであった. この年は 12 月 3 日まで成虫の活動を見たが 2014 年にかけての越冬個体は観察できていない.

次の観察は 2016 年 7 月 31 日の新鮮度が低い 1♀ で, 高砂公園のテニスコートそばのウバメガシ垣根の葉上での開翅個体 (図 2) であった. その後, しばらく確認できなかったが, 3 か月以上経った 11 月 12 日に高砂公園から約 2km 離れた荒井町小松原の県道 79 号沿い土手斜面で, セイタカアワダチソウで吸蜜する本種を観察した. 11 月 17 日には松波町 (高砂公園から約 900m)

のアカメモチ垣根の葉上にとまる新鮮な 1♀ を観察した. 2 年の期間を経た 2018 年 10 月 7 日には高砂公園の花壇周りに♀ が飛来し, ナデシコの花で吸蜜する場面 (図 3) が見られ, 10 月 21 日には荒井町小松原の県道 78 号沿い土手斜面のセイタカアワダチソウで吸蜜する本種をみた.

先述した説明の難しい不連続確認について, 2018 年 11 月より高砂公園のウバメガシ垣根周辺で観察できた記録を時系列に示す (表 1).

表 1. 2018 年から 2024 年にかけて高砂公園で確認されたムラサキシジミの記録

年	月日	個体数	備考
2018年	11月3-4日	1♀	
	11月17日	2♀	
	11月18日	1♂	
	11月24日	1♀ 1ex.	
	12月1日	2♂ (図4) 1♀ (越冬準備, 図5)	
	12月15日	2♀ (越冬準備)	
	12月21日	2♀ (日光浴)	
	12月23日	2♀ (越冬休眠) 2exs.	
	12月24日	2♀ 1ex. (越冬休眠)	
	2019年	1月13日	2♀ (日光浴)
1月14日		1♀ (日光浴) 1♀ (休眠)	
11月9日		1♂ (日光浴)	
11月10日		1♀ (日光浴)	
11月16日		1ex.	
2020年	1月19日	1♀ (越冬休眠)	
	3月13日	1♂ (越冬個体, 日光浴)	ウバメガシに新芽が出ているが産卵は未確認
2023年	11月4日	1♂ (セイタカアワダチソウで吸蜜)	
	11月22日	2♂ 3♀ (日光浴)	
	11月26日	1♂ (日光浴)	
	11月29日	1♂ (葉上に口吻をのぼす, 図6) 1♀	
	11月30日	1♂ (日光浴, 菊の花に口吻をのぼす) 1♀ (枯葉上で休眠)	
	12月1日	1♂ 1♀ (枯葉上で休眠)	
	12月3日	2♂	日光浴をしていた♂が休眠中の♀に接近
	12月4日	2♂ (日光浴)	
	12月6日	2♂ 1♀ (日光浴)	
	12月7日	3♂ (日光浴後, 枯葉上へ)	枯葉に移った後, 気温が 13℃を下回る
	12月10日	1♂ 1♀ (日光浴)	
12月14日	2♂ 1♀ が 1 か所で休眠 (図7)		
2024年	1月2-4日	2♂ (休眠)	

¹⁾Masami SHIMAZAKI・Yoshiko SHIMAZAKI 兵庫県高砂市

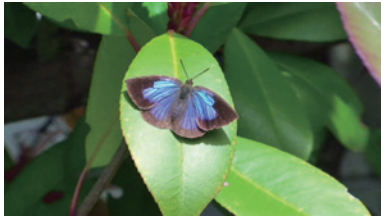


図1. ムラサキシジミ♀.
(2009/3/19 高砂市松波町)



図2. 日光浴中の♀.
(2016/7/31 高砂市高砂公園)



図3. ナデシコで吸蜜.
(2018/10/7 高砂市高砂公園)



図4. ムラサキシジミ♀.
(2018/12/1 高砂市高砂公園)



図5. 越冬準備中の♀.
(2018/12/1 高砂市高砂公園)



図6. 葉上で口吻をのばす♀.
(2023/11/29 高砂市高砂公園)



図7. 越冬休眠中の3個体.
(2023/12/14 高砂市高砂公園)

2018年から2024年の観察中にみられた本種の習性として特徴的な行動を列挙する。

- 1) 訪花性が低い本種の食餌行動に関する記録が少ないが、2023年11月29日に♂がウバメガシの葉上に口吻を伸ばしていた事例では、水分が葉から染み出る成分の何かなどを吸汁していた可能性が考えられる
- 2) 越冬場所として翅裏の淡褐色がカムフラージュとなるウバメガシ垣根の枯葉部分や褐色の枝の陰で一部が枯れた葉上(図6)などを利用している
- 3) すでに枯葉部分で越冬態勢を決めた個体を、他の個体が認識して寄り添うように休眠し始める行動がみられた(2023年12月3日)
- 4) 外気温が15℃未満では休眠状態を続け、太陽光が届いて気温が上がると、休眠中の個体でも葉上に移動して日光浴をすることがある
- 5) 日中の温かい時間中にウバメガシの葉上で開翅して日光浴をしていた個体が、急に越冬場所を確保していた枯葉上に移動した。その後、外気温が13℃以下まで下がり、気温の低下を予測した挙動だと考えられた

本種のカムフラージュ効果に関しては、近縁のムラサキツバメが集団で越冬する場合、ほとんどが常緑樹の葉陰で裏面の褐色を利用していないのに比べると、自然の理にかなった勝れた習性だと考えられる。ただし、高知市での未報告観察記録として本種がミカン類やビワの葉など緑色の葉陰で越冬していた例もあることを付記しておく。

本種に関しては、現地で毎日連続して観察できたわけではないが、5-9月でも毎週末にはウバメガシの垣根一帯を見て回っているが、以下2点の事象が2018年から2024年の間に三度も観察できたことに間違いはない。また、2021-2022年の観察できなかつた期間を経て、2023年の秋に再び発生したというのも事実である。

- ①越冬個体は1-3月までは確認できているが、その後確認されていない
- ②越冬後の♀が産卵をしたはずの次世代の発生が見られていないのに、晩秋の10-12月には新たな成虫が確認されている

高砂公園のウバメガシ垣根は8-9月に定期的な刈込が実施されるが、幼虫の時期とずれるため、その影響で本種が一時的に全滅するという状況はないと考えられる。5-9月に成虫を観察できたのは2016年7月31日だけである。ツマグロキチョウは秋型が広範囲に移動することが知られている(島崎, 2025)が、本種に関しても、晩秋になって高砂公園で観察できるのは、他の生息地からの長距離移動個体だと考えられる。

クロマダラソテツシジミが相当の長距離を移動してソテツの新芽を察知する事例は多く観察記録されている(島崎, 2024)が、本種においてもウバメガシやカシ類の植物成分を察知して移動する習性があるのかどうか、興味ある検討課題として報告した。

引用文献

- 島崎正美・島崎能子, 2024. 兵庫県高砂市におけるクロマダラソテツシジミの発生記録-2023. きべりはむし, 47(2): 46-47
- 島崎正美・島崎能子, 2025. 兵庫県高砂市へのツマグロキチョウの飛来記録と吸蜜植物. きべりはむし, 48(1): 123-125